

2024 10.5日 — 2025 1.26日

いま
を
現在を

新潮集する

月刊「新潮」創刊120周年記念展

特別協力・新潮社

開館時間 9時～17時（入館は30分前まで）

休館日 水曜日、年末年始（12月29日～1月3日）

会場 2階展示室 観覧料 一般500円

※高校生以下無料※障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名無料
※朔太郎展示室もご覧いただけます。

観覧無料の日

10月5日（土）（展示会初日）、12日（土）、13日（日）（前橋まつり）、28日（月）（群馬県民の日）
11月1日（金）（萩原朔太郎生誕日）、1月9日（木）（前橋初市まつり）



展示会案内サイト

文芸誌として
世界最多の刊行数！



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館

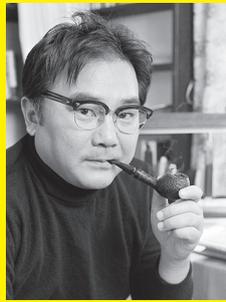
現在を 編集する

月刊「新潮」創刊120周年記念展

特別協力：新潮社



三島由紀夫



開高健



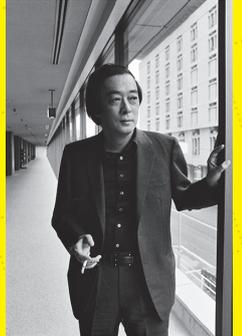
大江健三郎



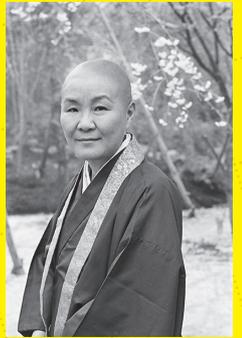
川端康成

いまから120年前の1904(明治37)年、日本屈指の文芸誌として名高い「新潮」は日露戦争のさなかに創刊されました。以来、関東大震災直後と第2次世界大戦の一時期をのぞき休むことなく刊行され、巻数は文芸誌として世界最多を数えます。激動する世界と向き合い、想像力や言葉をもって対峙する文学者の表現の舞台として、「新潮」は時代とともに走りつづけてきました。また新潮社は、萩原朔太郎賞開催における長年の協力先として、前橋市とゆかりの深い出版社でもあります。本展では「新潮」創刊120周年を記念し、新潮社の特別協力のもと、展示室を1冊の本にみたてた展示を展開し、膨大な数のバックナンバーや本展に寄せられた「新潮」ゆかりの作家たちからのメッセージ、「新潮」7大事件、作家が自作を語る音声など、貴重な資料の数々をご紹介します。

編集とは「選んで綴じる」ことだと、ある編集者は言います。現在を編集する「新潮」のこれまでとこれからを、ぜひご覧ください。



吉行淳之介



瀬戸内寂聴(晴美)

©新潮社写真部



「新潮」創刊号
1904年5月



社屋 1923年



新潮社創業者 佐藤義亮

関連イベント

◎リーディングシアター

三島由紀夫「近代能楽集」より「葵上」「弱法師」

演出 萩原朔美 前橋文学館 特別館長

日時 11月24日(日) 13時30開演(開場13時)

リーディングシアター専用チケットが必要です。

※1 演目券 500円(当日観覧券つき)

※2 演目券 1000円(当日+当日以降~1月26日(日)までの観覧券つき)

◎対談

九段理江 × 杉山達哉

「東京都同情塔」にて第170回芥川賞受賞

「新潮」編集長

司会 風元正 新潮社・萩原朔太郎賞推薦委員代表

日時 12月14日(土) 14時開演(開場13時30分)

当日購入の展示観覧券(500円)が必要です。

会場 3階ホール 定員 各100名

要予約・申込(先着順)は10月26日(土)9時より前橋文学館へ(TEL:027-235-8011)

同時開催

前橋文学館

「平井晩村生誕140周年記念展
—孤独と神聖のプリコラージュ—
~2025年1月12日(日)



アーツ前橋

「リキッドスケープ
東南アジアの今を見る」
9月21日(土)~12月24日(火)



◎アクセス◎

電車：JR前橋駅北口から徒歩約15分/タクシーで約10分
上毛電鉄中央前橋駅から徒歩約5分

バス：JR前橋駅北口バスのりば

・3番のりばから「中央前橋駅」行き(シャトルバス)

「中央前橋駅」下車 徒歩約5分

・6番のりばから「荻窪公園・嶺公園」行き

「城東町二丁目バス停」下車 徒歩約5分

自動車：関越自動車道 前橋ICから車で約15分

※広瀬川サンパーク(市営P城東)のご利用に際しては、駐車券に割引処理をいたします。



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館

〒371-0022群馬県前橋市千代田町三丁目12-10

TEL.027-235-8011 FAX.027-235-8512

https://www.maebashibungakukan.jp